

東北海区沿岸水温予報(2009年)

海域	経過 (12~3月)	現況(4月上旬~ 4月中旬)	見通し (4~6月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水研発表)	定線観測結果(太平洋) 3月 津軽暖流域の各層水温は、0m層で高め、50m、100m層ではやや高め、津軽暖流の東方への張り出し位置は東経142度45分付近までで平年並みでした。 定地水温 12月:平年並~やや高め 1月:平年並~やや高め 2月:平年並~やや高め 3月:平年並	定地水温 4月上旬:平年並~やや高め	津軽暖流域の水温は平年並~やや高めで推移する。 津軽暖流の東方への張り出しは平年並~やや東偏する。	3月の太平洋定線観測では、津軽暖流の東方への張り出し位置は平年並である。 3月の日本海定線観測では、各層水温は平年並~やや高め、対馬暖流の勢力は平年並~やや強勢である。 親潮系冷水の勢力にやや弱まる兆しがみられる。 定地水温は平年並~やや高めで推移している。	
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水セ発表)	12月 表面:県北部~県南部の沿岸10海里内を除く広範囲でやや低め~低め。 100m深:県北部~県南部沖合の一部を除くほぼ全域でやや低め~低め。 1月 表面:県北部の一部を除くほぼ全域でやや低め~低め。 100m深:県北部~県中部の沿岸10海里内を除く全域でやや低め~低め。 2月 表面:距岸10海里内で平年並み。県北部40~50海里、県中北部10~40海里、県中南部10~20海里、県南部20~30海里でやや低め~低めのほかは高め~やや高め。 100m深:距岸10海里内及び県北部~県中北部50海里、県中南部~南部40海里以東で平年並みのほかは、やや低め~低め。 3月 表面:県北及び県中北部40海里以東、県南部40海里以西で平年並み。県北50海里、県中北部30海里以西、県中南部10海里以西及び県南部50海里でやや低め、県中北部40海里以東、県中南部30海里以東で平年並み~やや高め。 100m深:県中北部40海里以東及び県中南部30~40海里でやや高めのほかは、全域で平年並み~やや低め。	表面:県南10海里内で平年並みのほか、やや高い~極めて高い、特に、県南20海里以東及び県中南部5海里以東、県中北部10海里、40~50海里で極めて高い。 100m深:県南40海里以東、県中南部30海里、県中北部50海里以東で極めて高い~高いほかは、やや高い~平年並み。	表面: 4~5月:距岸10海里以内は平年並み~やや高め。距岸10海里以東はやや高め~高めで推移。 6月:距岸10海里以内及び10海里以東とも平年並み~やや高めで推移。  100m深:沿岸は中部、沖合は中部および南部のE142°30'以東でやや高め。	表面:北上暖水が離岸10海里以東を北上して尻屋崎沖の暖水塊に連なっており、勢力が強いが、6月頃には平年並みになると思われること。  100m深:統計的予測モデルによる予測を行った。	
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水セ発表)	11月末には、表面水温は14~19台で巨理沖合(38°Nライン)の141°E付近と143°E付近で平年より高め、その他の海域では概ね平年並みであった。100m深水温は、4~15台で雄勝沖合(38°30'Nライン)の142°30'~142°50'E付近には平年より6~7低めの水域が見られた。 1月には、表面水温は9~15台になり、100m深水温は7~15台であった。表面水温・100m深水温ともに、雄勝沖合142°30'E付近の海域で平年より低め、雄勝沖合143°E付近と巨理沖合142°E以東の海域で平年より高めであった。その他の海域では概ね平年並みになった。 2月には、表面水温は5~15台になり、100m深水温は5~13台になった。表面水温・100m深水温共に、143°E付近の海域で平年より高め、142°10'E付近の海域では平年より低め、その他の海域では概ね平年並みになった。 3月には、表面水温は2~13台になり、100m深水温は2~11台になった。表面水温・100m深水温共に、気仙沼沖合(38°50'Nライン)から雄勝沖合にかけて、142°30'E付近の海域で平年よりも2~4低めになった。巨理沖合では142°E付近の海域で平年より1~3低く、143°E付近の海域では平年より2~5高めであった。これ以外は岸よりの海域を中心に概ね平年並みであった。	4月には、表面水温は7~12台で、100m深水温は、5~11台であった。表面水温・100m深水温ともに雄勝沖合(38°30'Nライン)から巨理沖合(38°Nライン)にかけて、沿岸海域では平年並みかやや高め、142°30'E付近の海域では平年より5~6高めとなった。	100m深水温について、気仙沼沖合(38°50'Nライン)の142°30'Eより沖側海域、雄勝沖合(38°30'Nライン)の142°10'Eより沖側海域、巨理沖合(38°Nライン)の142°10'E~142°30'E付近の海域で、5月、6月ともに平年より極めて高めで推移する。 巨理沖合(38°Nライン)の142°50'Eより沖側海域では、5月は平年より極めて低め、6月は平年並みで推移する。 このほかについては、5月から6月にかけて平年並みで推移する。	「沿岸定線データを用いた宮城県沿岸海域の海況予測モデル」によって海況予測を実施した。(2009年4月について、類似年は1979年であった。)	特になし。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)					

<p>常磐南部～鹿島灘(茨城県沿岸; 茨城水試発表)</p>	<p>12月:北方海域から冷水波及があり、前月に比べて海面から水深100m付近及び中北部沖合域で著しく水温が低下した。そのため、平年と比べて低め基調へと変化した。一方で、南部沿岸域には海面付近を中心とした弱い暖水舌が形成された。</p> <p>表面水温:13 ~21 「極めて低い」～「やや高い」 100m深水温:9 ~19 「極めて低い」～「平年並み」</p> <p>1月:北方海域から沿岸域へ冷水が波及するとともに、沖合域から沿岸域へ暖水が波及したため、寒暖が入り混じる海況となった。黒潮流路は前月まで房総半島に接岸傾向で推移していたが、流路変動に伴って大きく離岸した。なお、1月の海洋観測は荒天で欠測が多く、水温および平年偏差は記載しない。</p> <p>2月:前月と似た海況で推移した。黒潮は犬吠崎沖から大きく離岸、南偏で推移した。</p> <p>表面水温:9 ~18 「低い」～「極めて高い」 100m深水温:7 ~16 「極めて低い」～「極めて高い」</p> <p>3月:沿岸域には南方から黒潮系暖水の波及があった。黒潮は犬吠崎沖から離岸で推移した。なお、3月の海洋観測は荒天で欠測が多く、水温および平年偏差は記載しない。</p>	<p>沿岸域には時計回りの小暖水渦が形成され、広く黒潮系暖水に覆われた。そのため、水温を平年と比較すると、沿岸域の広い範囲で高め基調となった。黒潮は前月よりも接岸傾向で推移している。</p> <p>表面水温:15 ~20 「やや高い」～「極めて高い」 100m深水温:7 ~17 「低い」～「極めて高い」</p>	<p>沿岸域の水温は概ね「平年並み」～「高め」で推移する。ただし、北方から冷水が波及した場合は一時的に「低め」となる。</p>	<p>親潮の面積は平年に比べて著しく縮小しており(1)、親潮系冷水が常磐南部海域に急激に波及する可能性は低い。ただし、常磐北部沖には冷水が存在しており、常磐海域の小暖水渦の勢力が弱まれば、北部海域からこの冷水が波及する可能性がある。</p> <p>経験的統計解析 2では、沿岸海域の水温は概ね「平年並み」～「高め」で推移すると予測された。</p> <p>FRA-JCOPEでは黒潮流路が常磐沖を大きく北上すると予測されており、黒潮系暖水が沿岸域へ波及する可能性がある。</p> <p>1:気象庁発表 2:経験的水温予測システム(自己回帰モデル)</p>	<p>特になし</p>
--------------------------------	---	--	---	--	-------------

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い(7.5%)	+1.6 ~+2.3	+2.5 ~+3.9	4.0 ~+5.9	+1.6 ~+2.3	+2.5 ~+3.9	+2.5 ~+3.9
やや高い(20%)	+0.7 ~+1.5	+1.0 ~+2.4	1.5 ~+3.9	+0.7 ~+1.5	+1.0 ~+2.4	+1.0 ~+2.4
平年並(40%)	+0.6 ~-0.6	+0.9 ~-0.9	1.4 ~-1.4	+0.6 ~-0.6	+0.9 ~-0.9	+0.9 ~-0.9
やや低い(20%)	-0.7 ~-1.5	-1.0 ~-2.4	1.5 ~-3.9	-0.7 ~-1.5	-1.0 ~-2.4	-1.0 ~-2.4
低い(7.5%)	-1.6 ~-2.3	-2.5 ~-3.9	4.0 ~-5.9	-1.6 ~-2.3	-2.5 ~-3.9	-2.5 ~-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~